



私の3冊

池永康規

後輩に薦める 2 冊

松尾 隆 (著)

脳性麻痺と機能訓練 (改訂第2版) 運動障害の本質と訓練の実際

南江堂, 2002 年刊

脳性麻痺に関する治療, 訓練を解説した歴史的名著ですが, 「生物が運動し移動する」という現象も明快に解説され, 移動と運動を大きなテーマとして捉えるリハビリテーション医としての基礎概念を形成することができました. 歩行や巧緻運動などの観察力が高まり, 治療手段のヒントを得ることができ, 普段小児を診察することが少ないリハビリテーション医にもお勧めです.

才藤栄一, 植田耕一郎 (監修) 出江紳一, 鎌倉やよい, 熊倉勇美, 弘中祥司, 藤島一郎, 松尾浩一郎, 山田好秋 (編)

摂食嚥下リハビリテーション (第3版)

医歯薬出版, 2016 年刊

摂食嚥下リハビリテーション大辞典ともいえる集大成です. 改定の度に進化しており, その都度購入してきました. 摂食嚥下リハビリテーションにかかわるほぼすべての評価訓練方法が解説されているだけでなく, チーム医療, 学習理論なども詳細に解説されています. 辞典として調べる目的が強い書籍ですが, 頑張って通読すると摂食嚥下リハビリテーションのエキスパートになれるといっても過言ではありません.

自分の 1 冊

内科臨床誌 メディチーナ (medicina)

医学書院, 1964 年創刊

リハビリテーション専門医取得直後意気揚々と第一線病院へ赴任したものの, 全身管理を適切に行うことができず, 病棟看護師から厳しい洗礼を受けました. 悩める私に内科医師がメディチーナを毎月読むことを勧めて下さり今も継続しています. 電解質異常, 感染症, 心房細動, 糖尿病など病棟で頻繁に遭遇する合併症に対しどのように初期治療, 管理すべきか最新の知見を含め一般内科医向けに解説され, 今でも心の支えとなっています.

■ いけなが・やすのり 医師 22 年目 特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンターリハビリテーション科

回復期リハビリテーション病棟にて, 脳卒中を中心に年間 200 例ほど主治医として受け持ち全科当直, 救急車受け入れも行っています. 多疾患を抱える高齢者の主治医になる場合, リハビリテーションのみならず総合診療を実践できる知識と技術が要求されます. 移動, 運動, 摂食嚥下などリハビリテーション医としてのスペシャリティをもち, さらに総合診療能力を身につけ信頼されるリハビリテーション医になるために上記 3 冊はお薦めです.